

# 【ピーク調査】 お盆期間における観光旅行の動向

調査結果（消費者側、宿泊施設、観光地点）

# 消費者側調査結果

# 休日の取得状況

旅行者

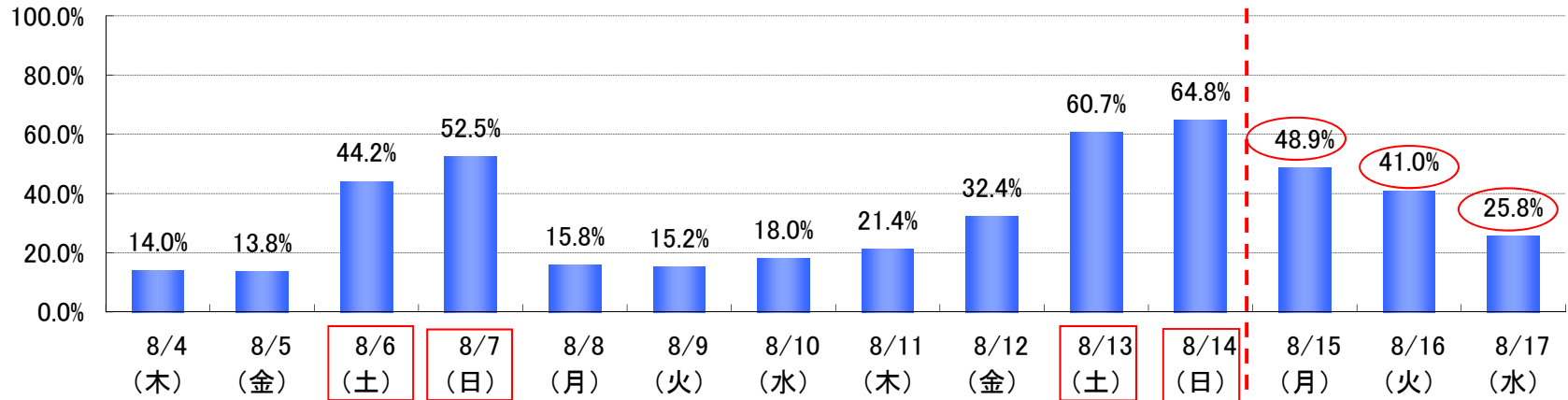
宿泊施設

観光地点

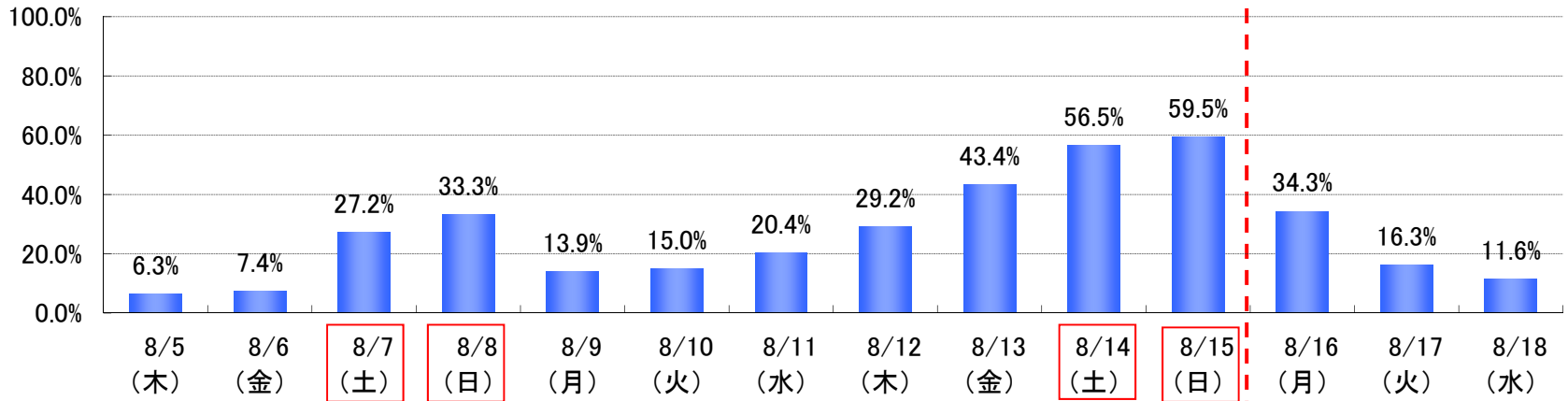
別添1

- お盆期間の平日において休日を取得した人の割合は、昨年と比べ高い。

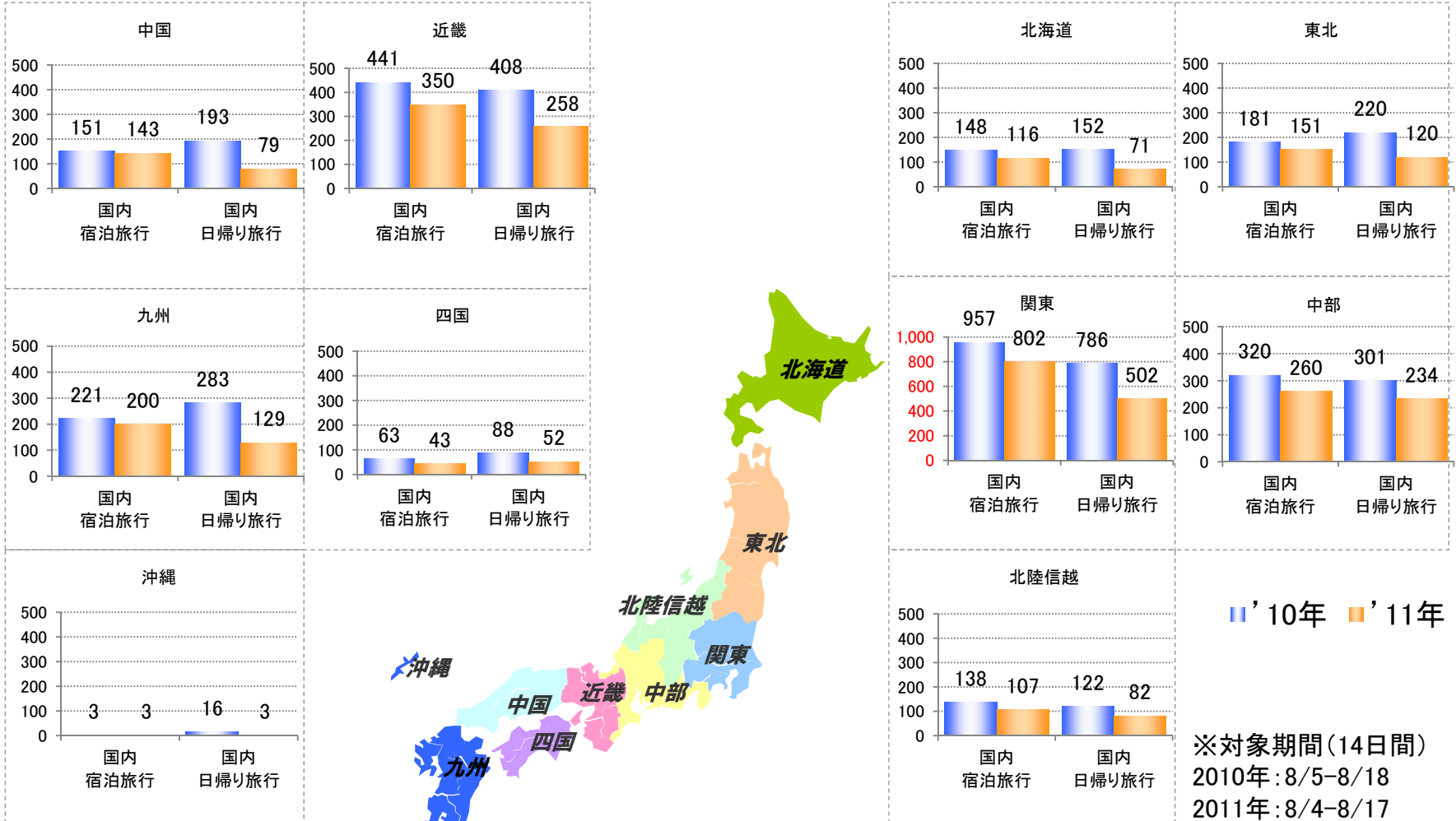
## 2011年



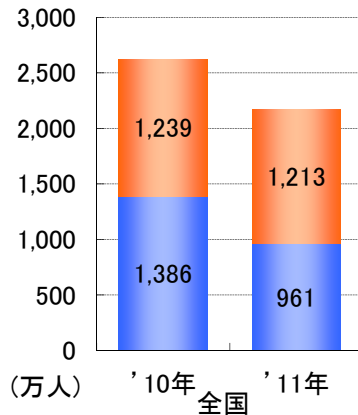
## 2010年



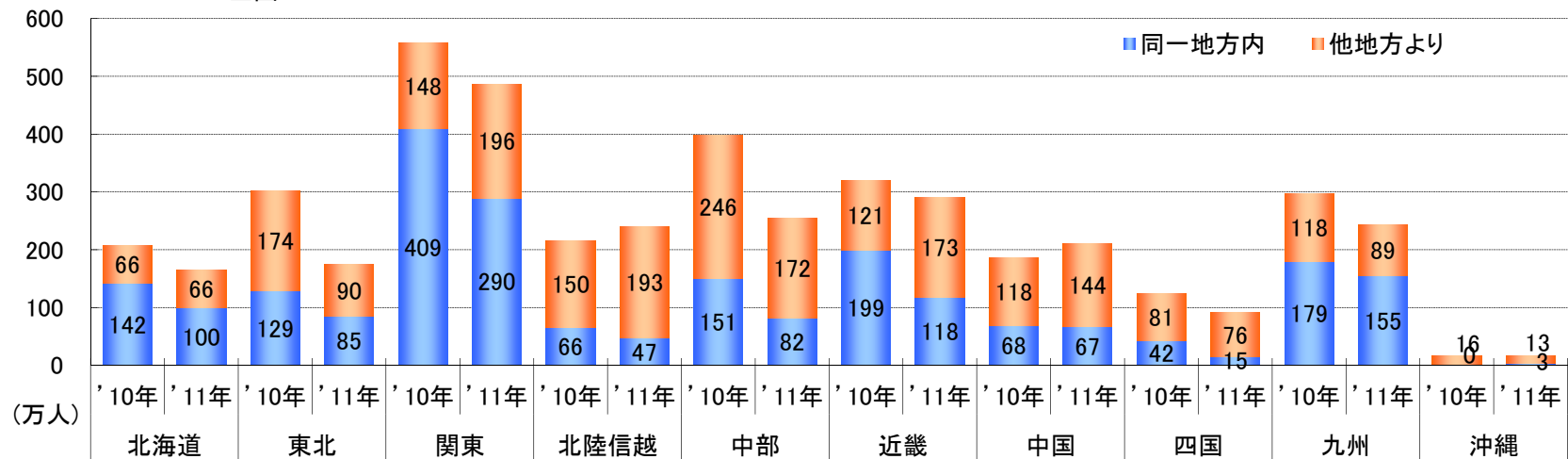
- 全ての地域で国内宿泊旅行・日帰り旅行ともに昨年と比べ減少している。  
とりわけ北海道、中国、九州、沖縄の各地方発の国内日帰り旅行が半分以下に減少している。



- ・ 居住する地域内で発着する宿泊旅行を実施した者は、沖縄地方を除く全ての地方で減少している。
- ・ 関東、北陸信越、近畿、中国地方では地域外からの宿泊旅行人数が増加している一方、東北、中部地方では地域外からの宿泊旅行人数が昨年に比べ大きく減少している。なお、北陸信越、中国地方では昨年に比べて宿泊旅行人数が増加している。



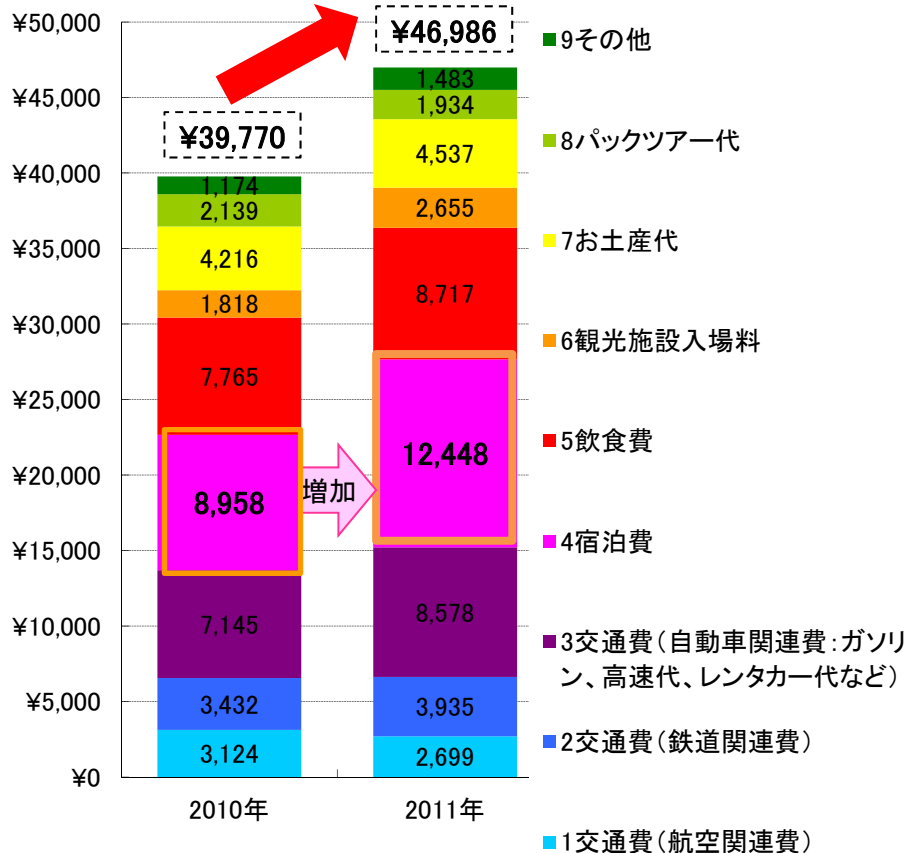
※対象期間(14日間)  
 2010年: 8/5-8/18  
 2011年: 8/4-8/17



- 国内宿泊旅行の消費額単価の内訳を見ると、昨年と比べ交通費(航空関連費)、パッキングツアー代を除く各費目で増加。中でも、宿泊費の増加が顕著で、全体で18.1%(7,216円)増加。
- 国内日帰り旅行の消費額単価の内訳を見ると、昨年と比べ各費目でおしなべて上昇、全体で23.5%(2,632円)増加。

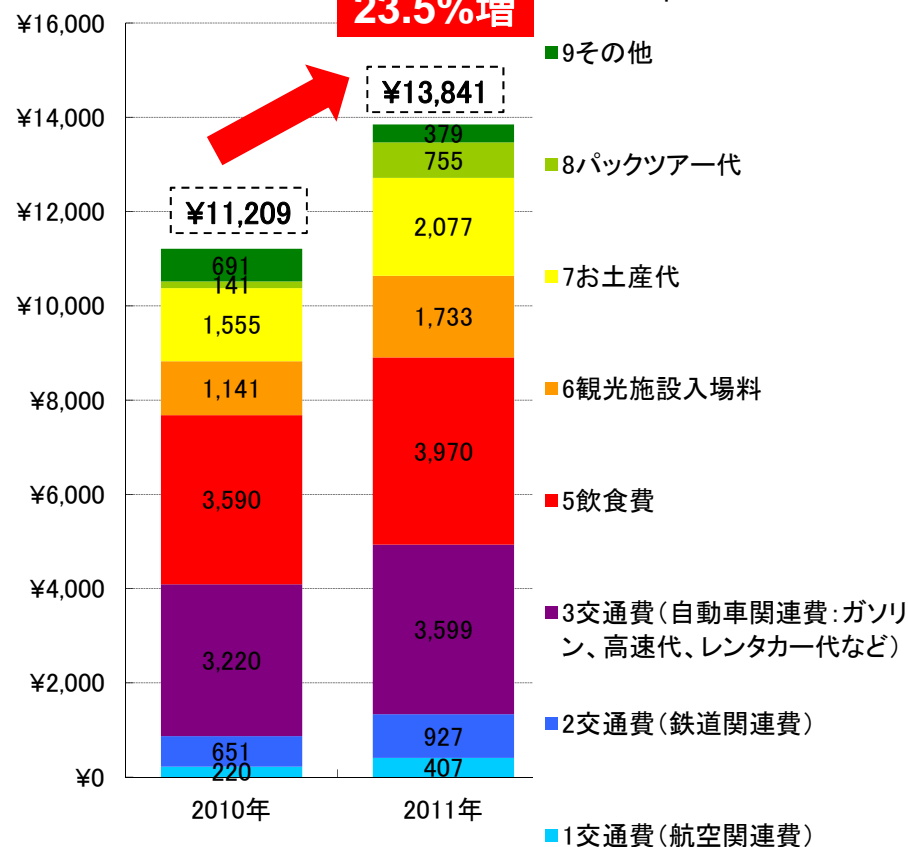
## 国内宿泊旅行

**18.1%増**



## 国内日帰り旅行

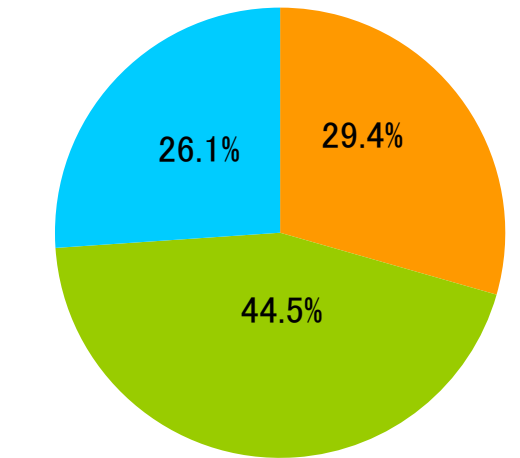
**23.5%増**



※対象期間(14日間)  
2010年:8/5-8/18  
2011年:8/4-8/17

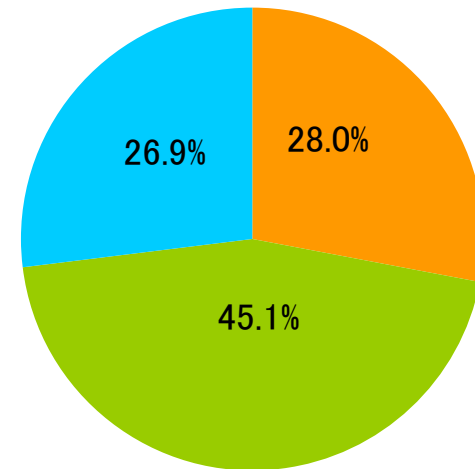
- 今年の7月1日～9月30日の期間における余暇全体の支出は、昨年の同時期に比べて「増加した」と回答した人が29.4%、「減少した」と回答した人が26.1%と「増加した」との回答割合がやや高い。旅行消費支出についても、ほぼ同様の傾向が見られる。

今年の7月1日～9月30日における余暇全体の消費支出(昨年比)



■ 増加した ■ 同程度 ■ 減少した

うち旅行消費支出(昨年比)

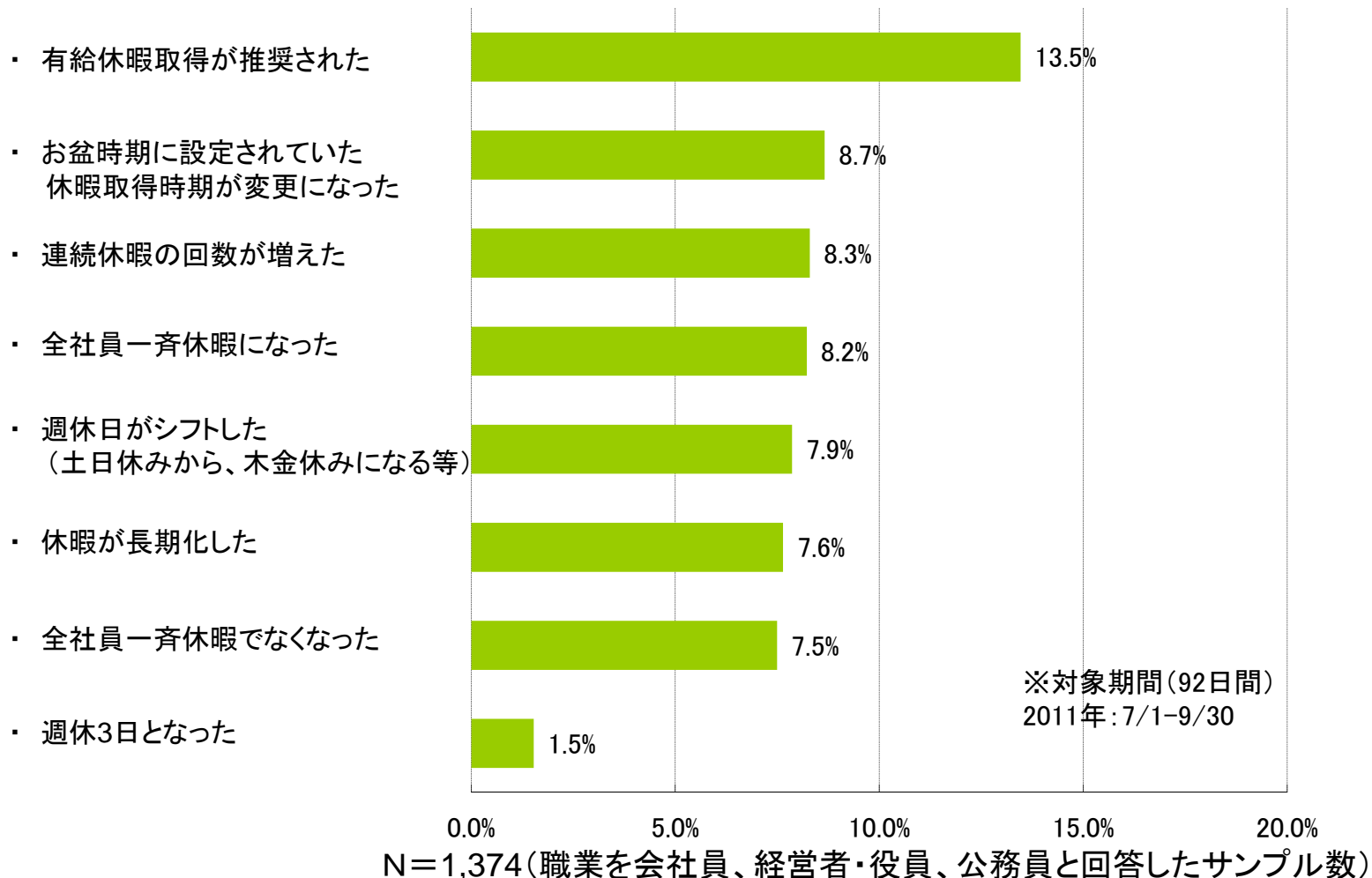


■ 増加した ■ 同程度 ■ 減少した

N=2,052(7月1日～9月30日の間に旅行に出かけたと回答したサンプル数)

※ここでの旅行消費支出は、旅行中だけでなく旅行前後の支出(例 旅行前の準備費用等、旅行後の写真現像等)を全て含んでいる。

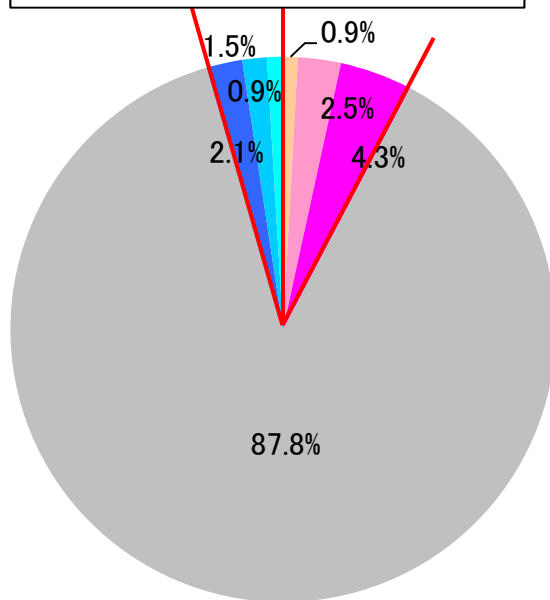
- ・ 休暇制度の変化について見ると、「有給休暇取得が奨励された」と回答した人の割合が1割を超えている(13.5%)。



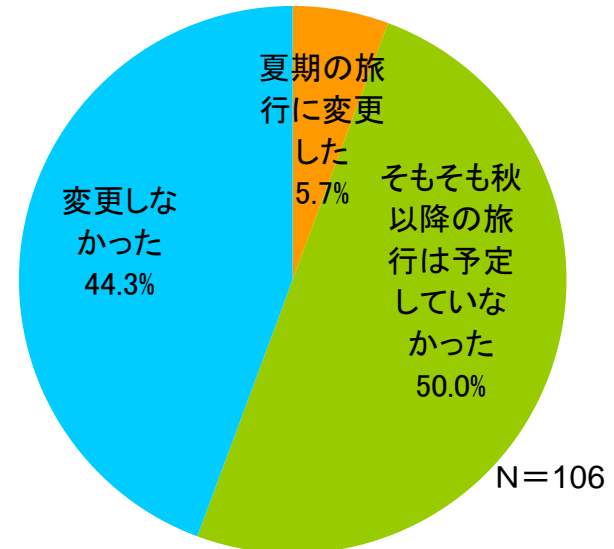


- ・ 今年の7月1日～9月30日における休暇付与日数の変化について見ると、「変わらなかった」と回答した人の割合が87.8%とほとんどを占める。「増えた」、「減った」と回答した人の割合を比較すると「増えた」と回答した人の割合の方が大きい。
- ・ 休暇付与日数が「増えた」と回答した人のうち、秋以降に予定していた旅行を夏期の旅行に変更して実施した人は5.7%。

今年の7月1日～9月30日における休暇付与日数の変化



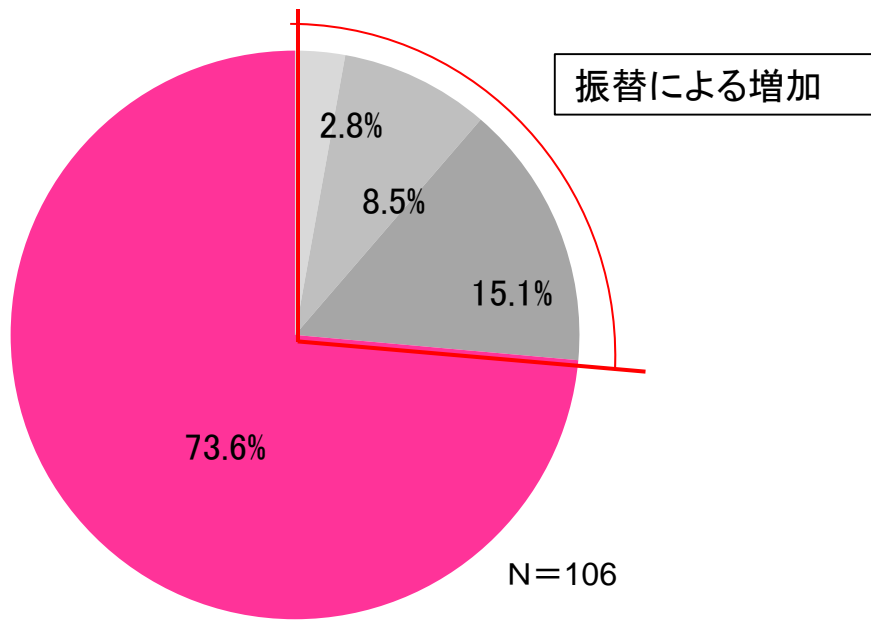
休暇付与日数が「増えた」と回答した人における秋以降の旅行を夏期の旅行に変更して実施した割合



- 増えた(1日)
- 増えた(2日)
- 増えた(3日以上)
- 変わらなかった
- 減った(3日以上)
- 減った(2日)
- 減った(1日)

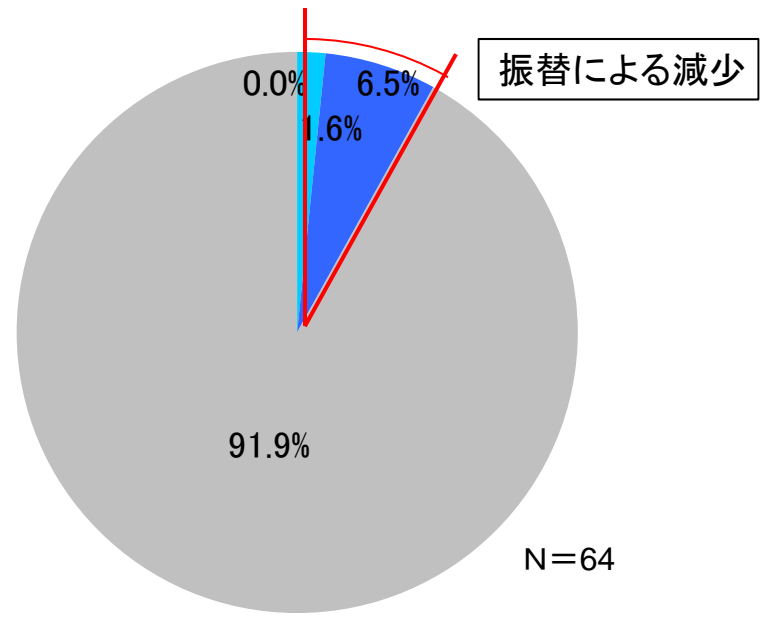
- ・ 今年の7月1日～9月30日における休暇付与日数が「増えた」と回答した人のうち、休暇付与日数が純増した人の割合は73.6%であり、振替による割合は26.4%であった。
- ・ 休暇付与日数が「減った」と回答した人のうち、振替による割合は8.1%であり、残り91.9%は純減している。

休暇付与日数が「増えた」と回答した人



- ・振替による増加
  - 増えた(1日)
  - 増えた(2日)
  - 増えた(3日以上)
- ・純増
  - 付与日数が増加した

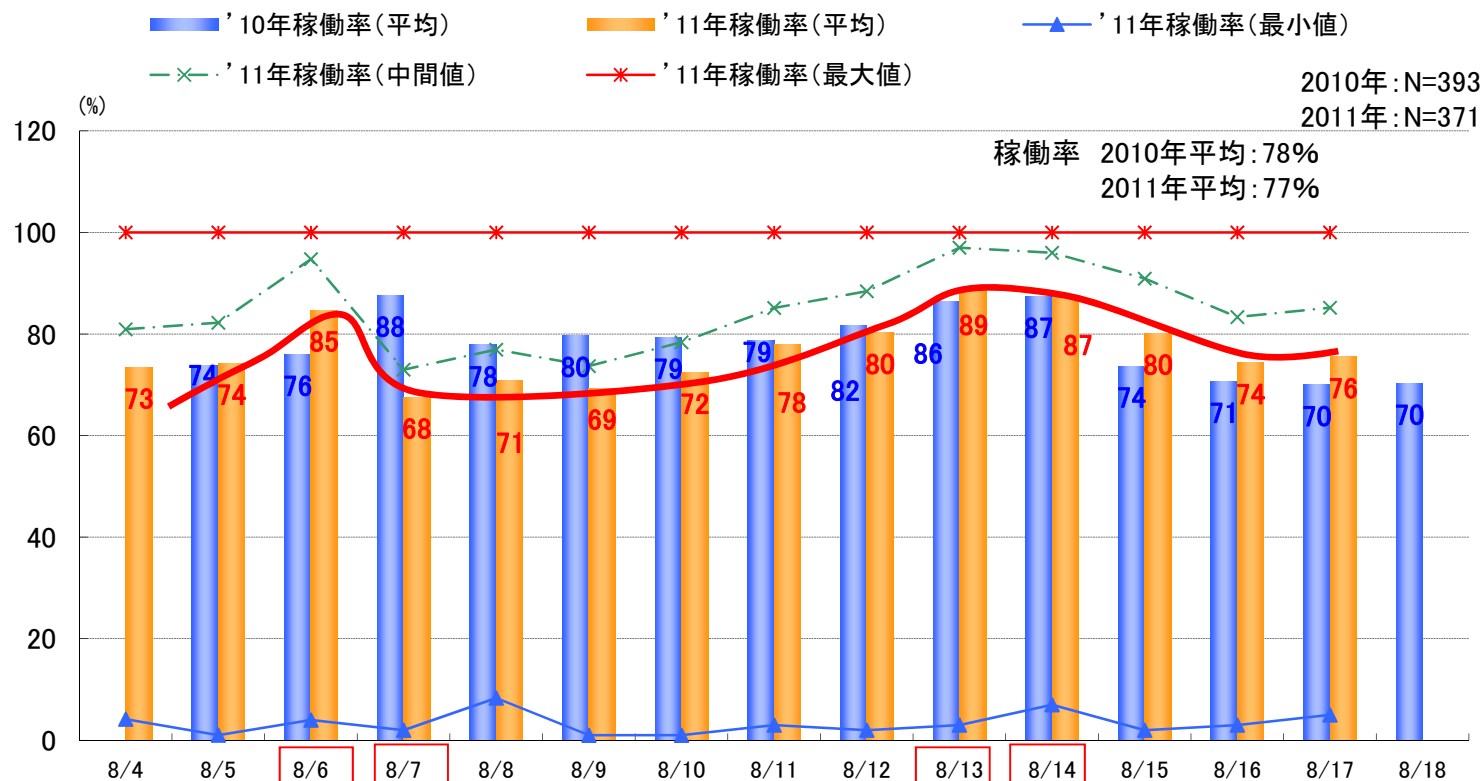
休暇付与日数が「減った」と回答した人



- ・振替による減少
  - 減った(1日)
  - 減った(2日)
  - 減った(3日以上)
- ・純減
  - 付与日数が減少した

# 宿泊施設調査結果

- ・ 宿泊施設の客室平均稼働率は77%であり、昨年とほぼ同じである。  
日別に見ると昨年に比べ、期間の後半に稼働率がやや高い傾向にある。



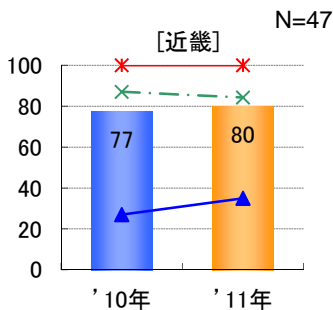
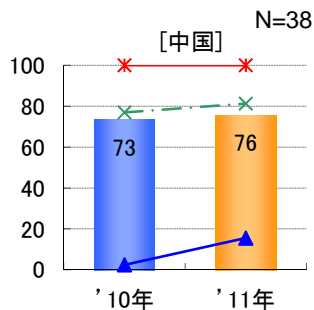
□ は土日・祝日(2011年の暦)

※対象期間(14日間)

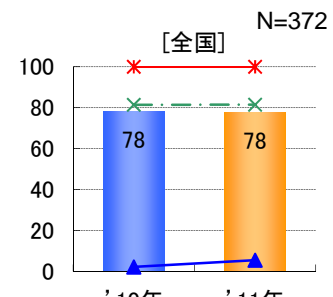
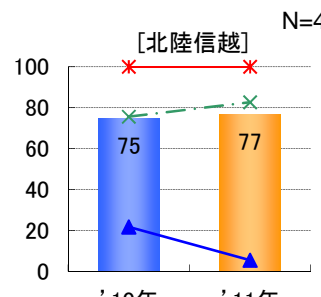
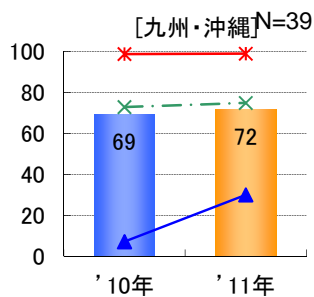
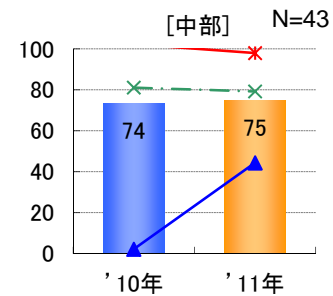
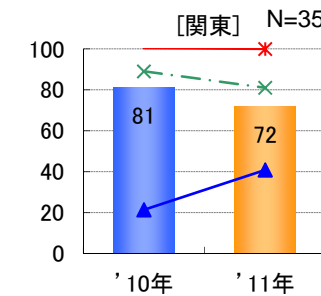
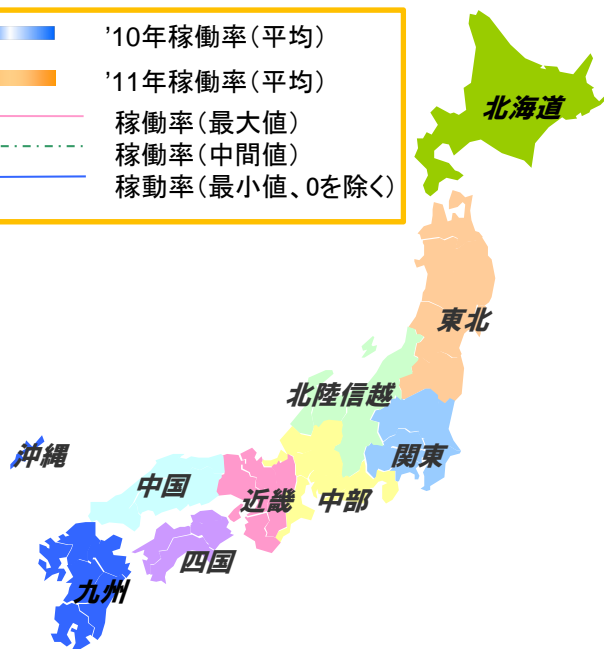
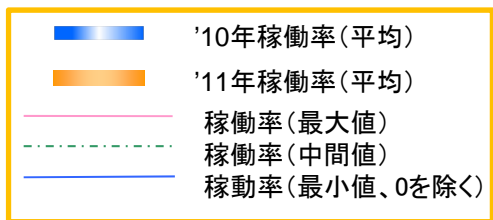
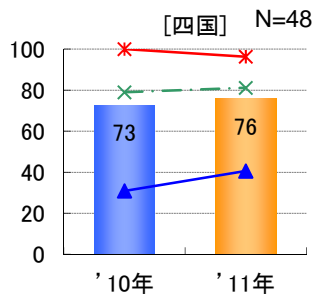
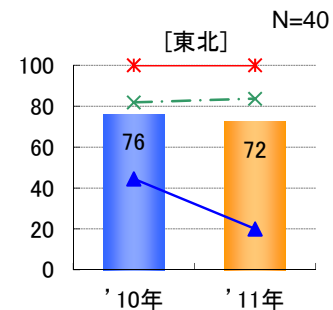
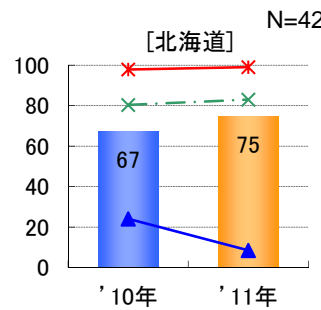
2010年: 8/5-8/18 2011年: 8/4-8/17

# 宿泊施設の客室平均稼働率

- お盆期間における客室平均稼働率は、昨年と比べ関東地方が9ポイント、東北地方が4ポイント減少している。一方、他の地方の客室平均稼働率は1～8ポイント増加している。

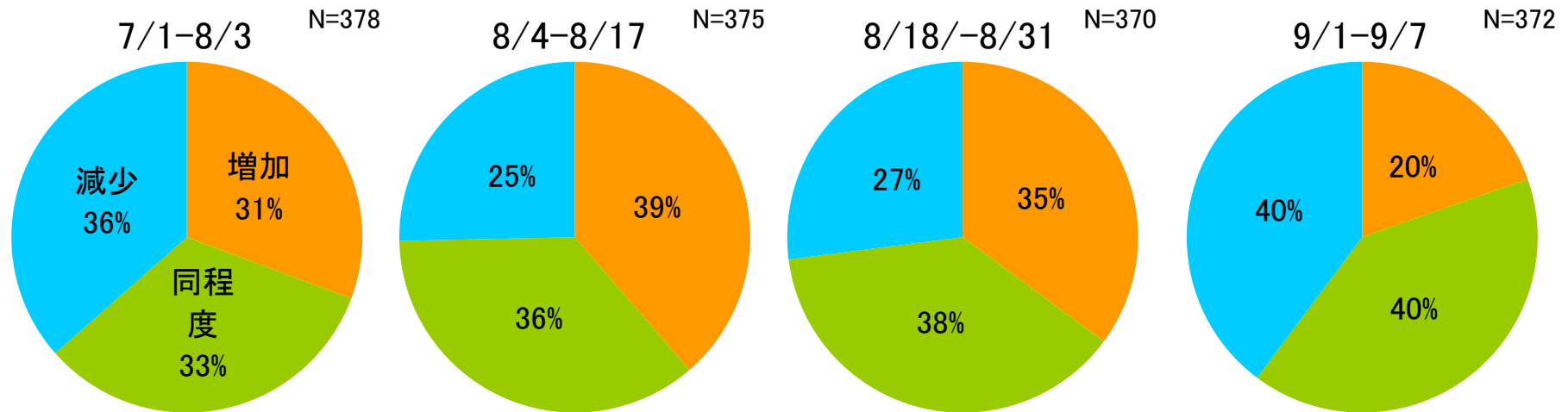


※対象期間(14日間)  
2010年:8/5~8/18  
2011年:8/4~8/17

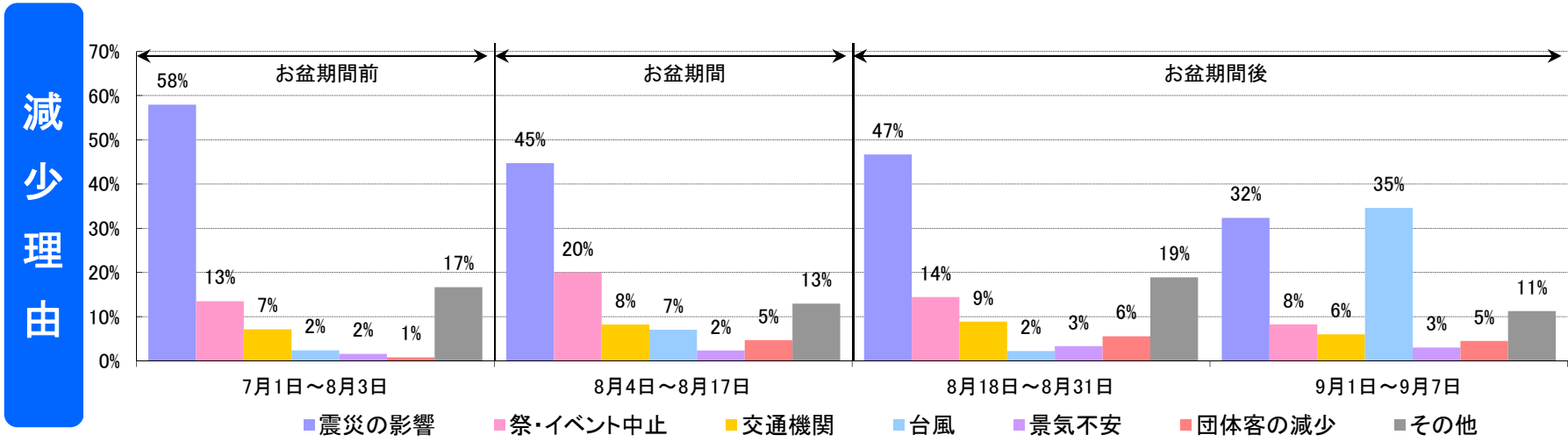
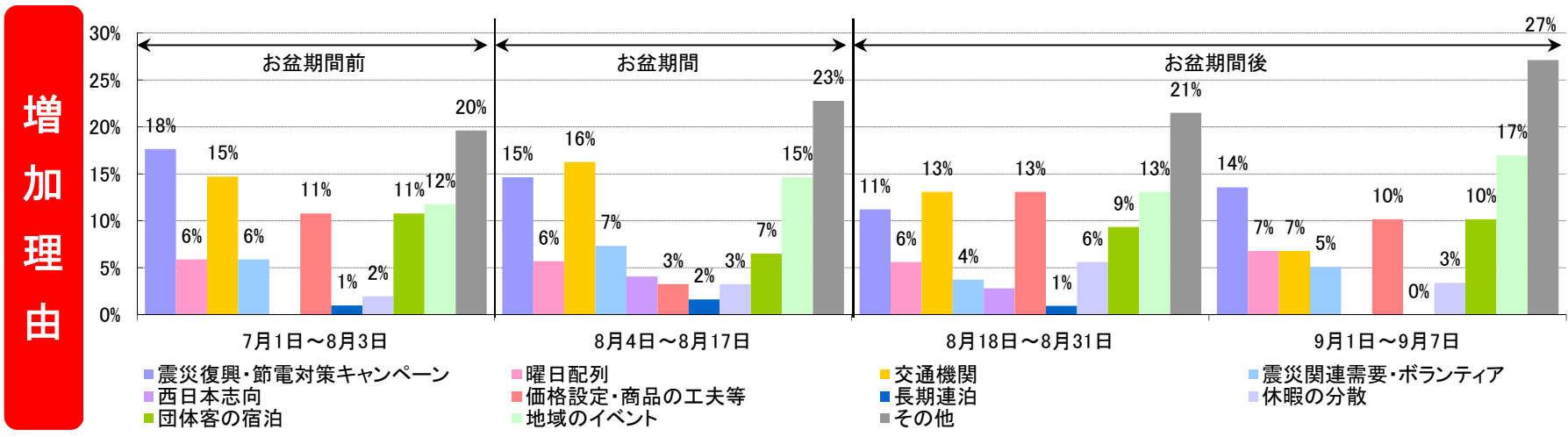


- 今年の7月1日～9月7日までの期間における昨年同時期との宿泊者数の増減を見ると、8月4日～17日では宿泊者数が「増加した」と意識している宿泊施設が39%にのぼる一方、9月1日～7日の期間では「減少した」と意識している宿泊施設が40%となっている。

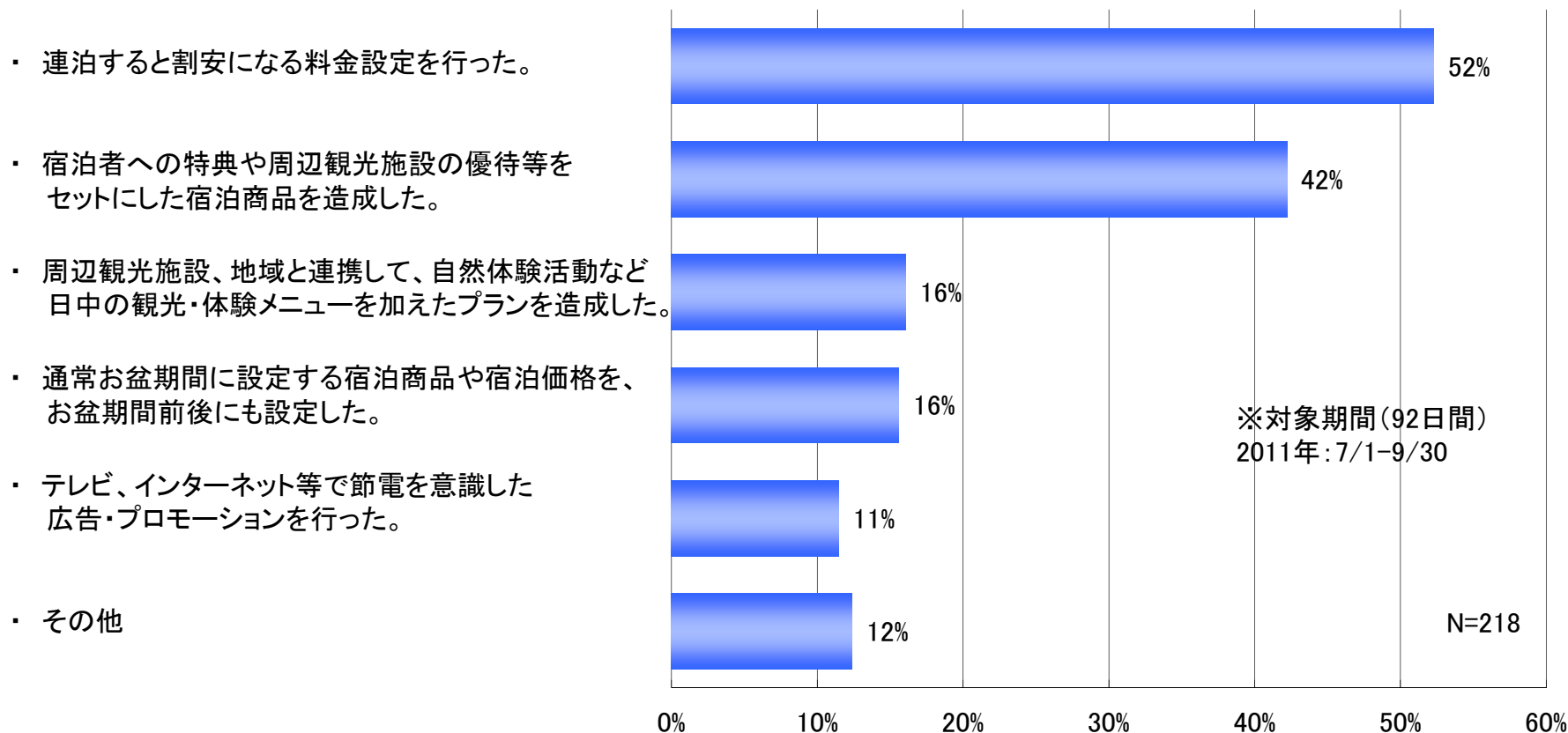
宿泊施設における期間別の宿泊者数の増減(昨年同時期比)



- ・ 宿泊客数が増加した主な理由は「震災復興・節電対策キャンペーン」の実施が挙げられている。一方、宿泊客数が減少した主な理由は「震災の影響」が挙げられている。
- ・ 9月上旬は減少理由として「台風」をあげた施設が35%と最も多く、台風12号の影響の大きさがうかがわれる。



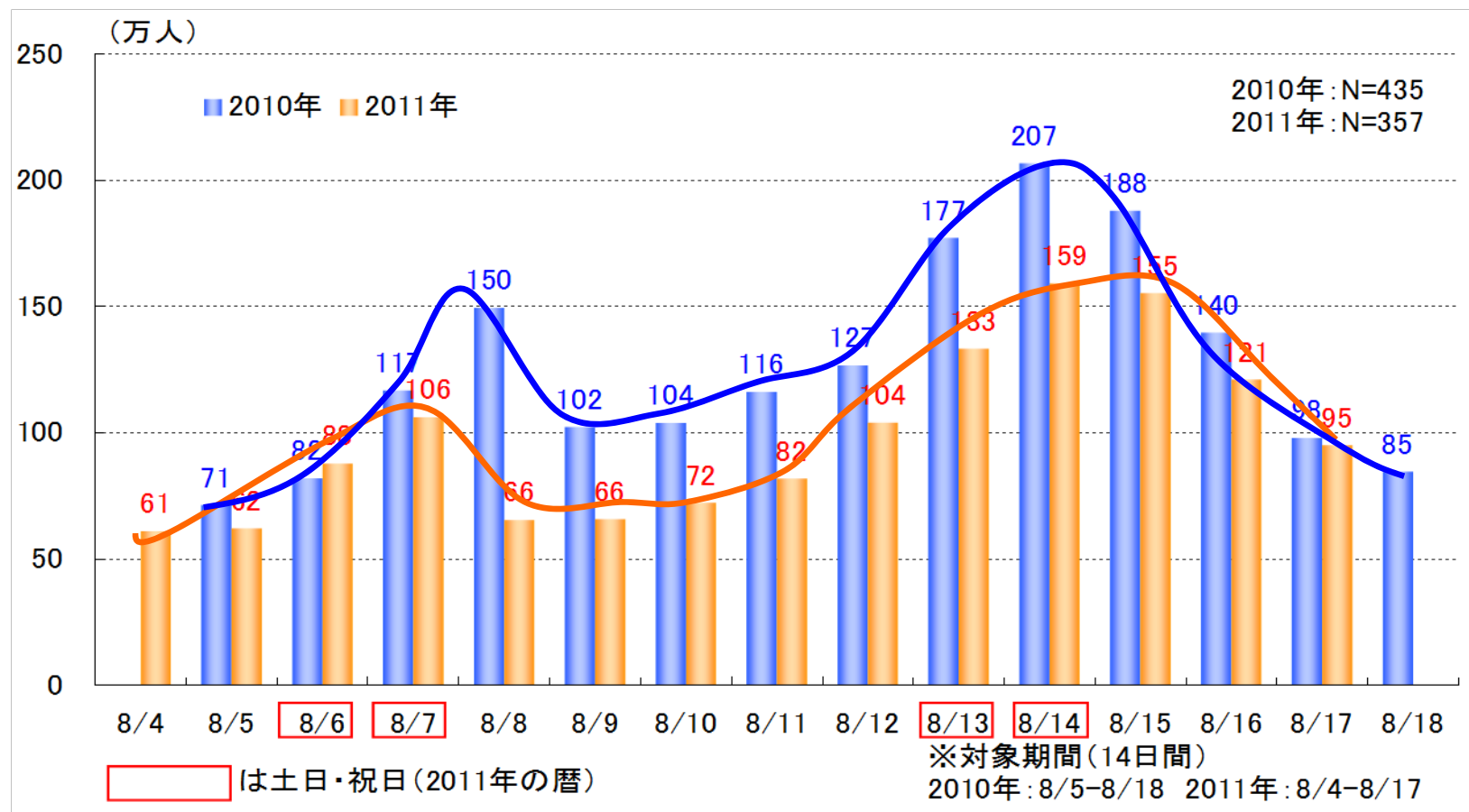
- ・ 宿泊施設におけるキャンペーン等の実施状況を見ると、「連泊をすると割安になる料金設定を行った。」が52%と最も高かった。次いで「宿泊者への特典や周辺観光施設の優待等をセットにした宿泊商品を造成した」が42%となっている。





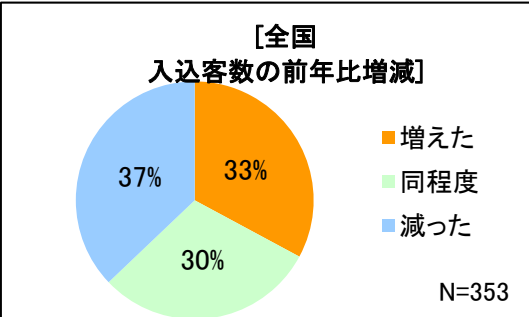
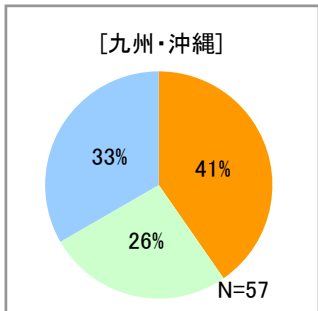
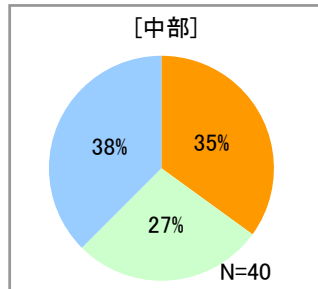
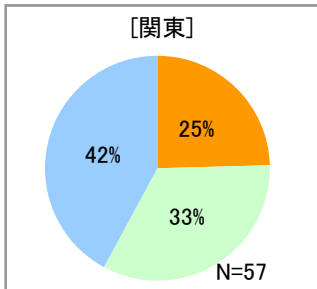
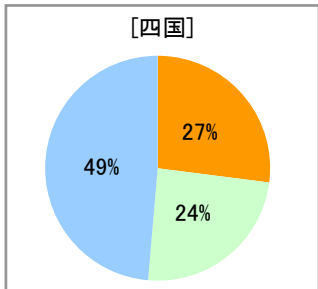
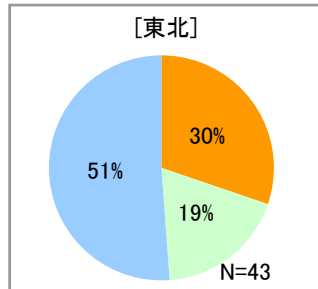
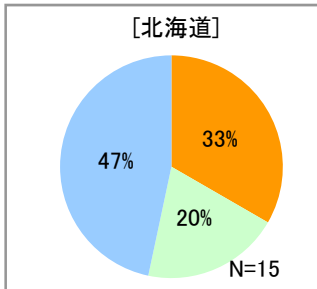
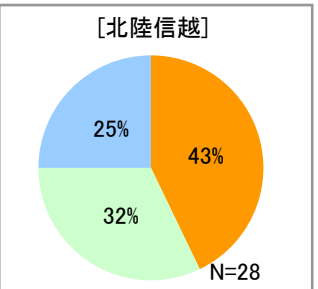
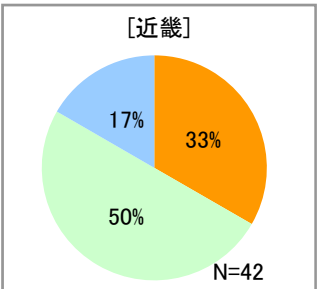
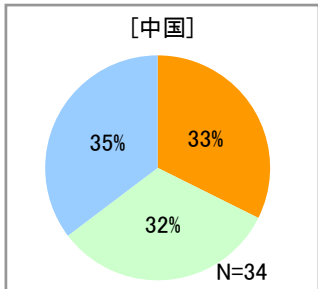
# 観光地点調査結果

- お盆期間における観光地点の入込客数を見ると、後半の土日(8月13・14日)を中心とする2回目のピークが昨年(2010年)に比べ緩やかな傾向がある。



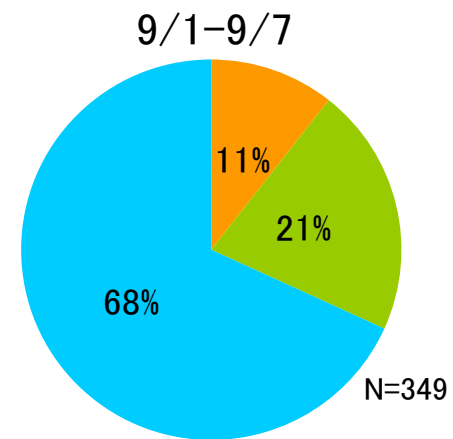
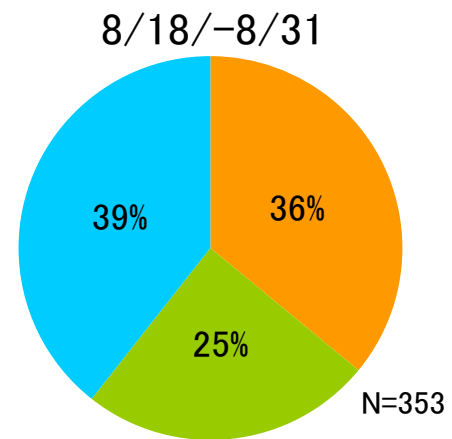
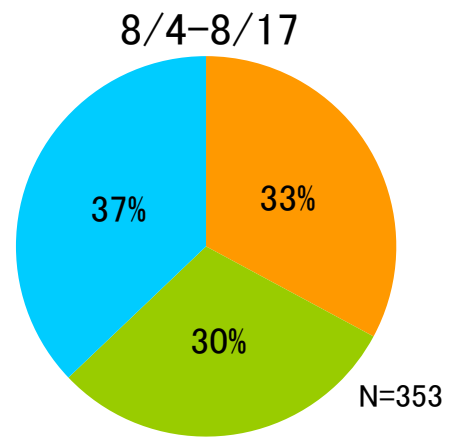
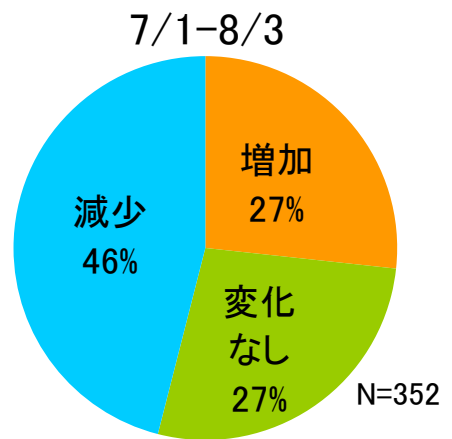
# 観光地点の入込客数の状況(お盆時期)

- お盆期間における全国の観光地点における入込客数の増減の意識状況は昨年と比べ、「増えた」との回答が33%、「減った」との回答が37%、「同程度」との回答が30%。
- 入込客数が減ったと意識している観光地点の割合が多いのは、東北地方(51%)、四国地方(49%)、北海道地方(47%)、関東地方(42%)。



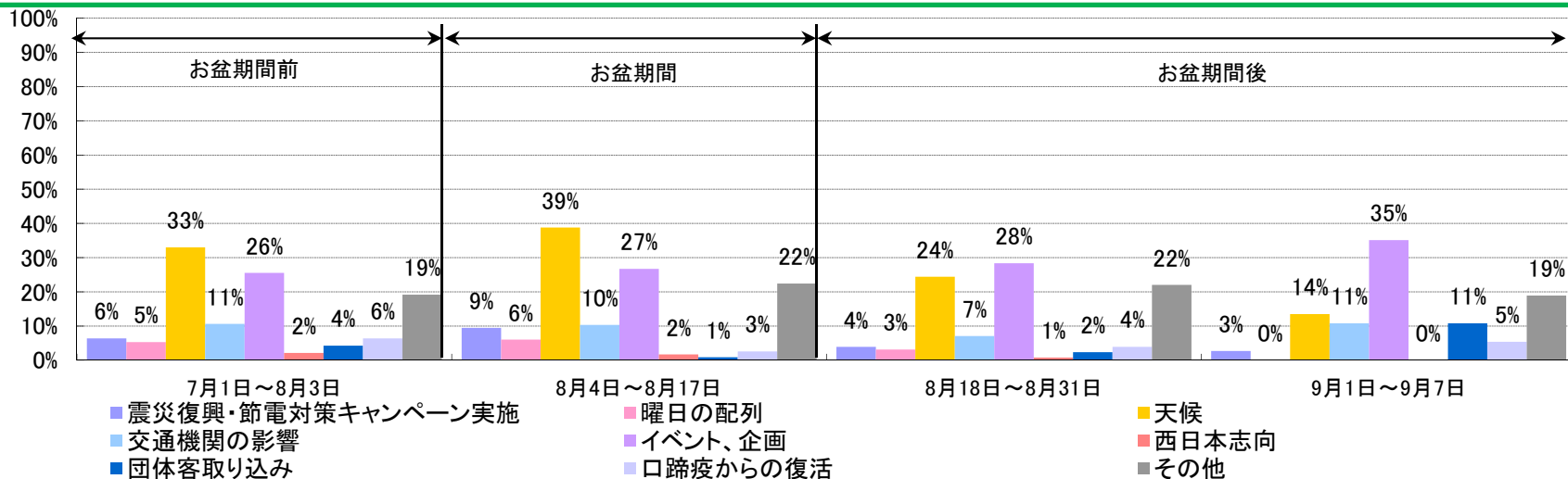
※対象期間(14日間)  
2011年:8/4-8/17

- 今年の7月1日~9月7日における期間別の観光施設等の入込客数を見ると、お盆期間とお盆期間直後では、「増加した」と意識している観光地点と「減少した」と意識している観光地点が同程度であるが、お盆前期間と9月に入ってからでは「減少した」と意識している観光地点が多い。

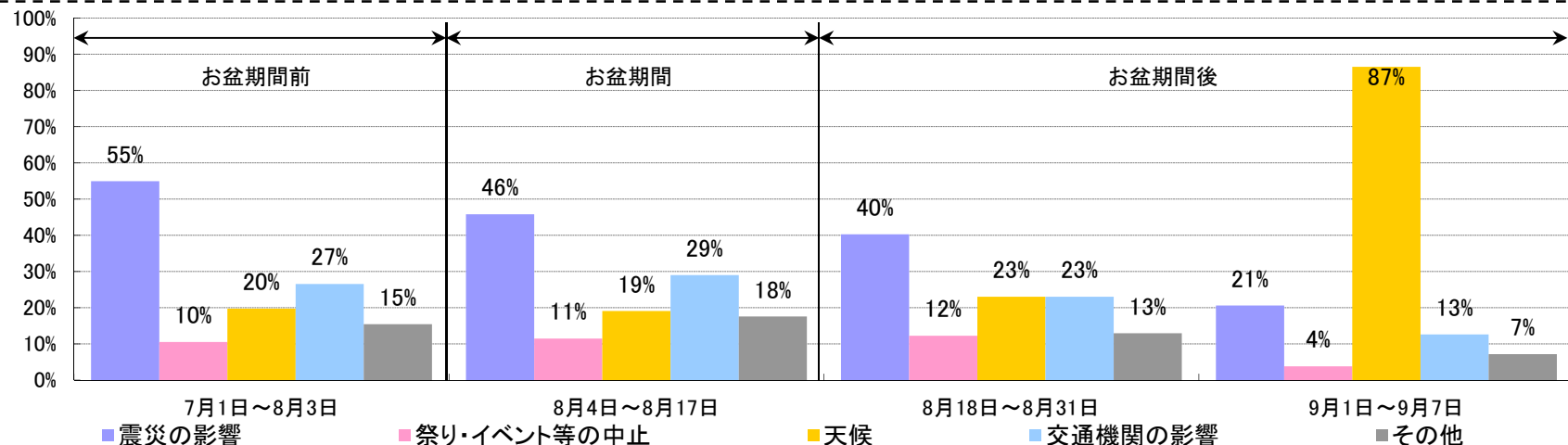


- 入込客数が増加した主な理由は「天候」や「イベント・企画の開催」などが挙げられている。一方、入込客数が減少した理由は「震災の影響」が挙げられているが、徐々に減少している。
- 9月上旬は減少理由として「天候」をあげた施設が87%にのぼり、同期間中に上陸した台風12号の影響がうかがわれる。

## 増加理由

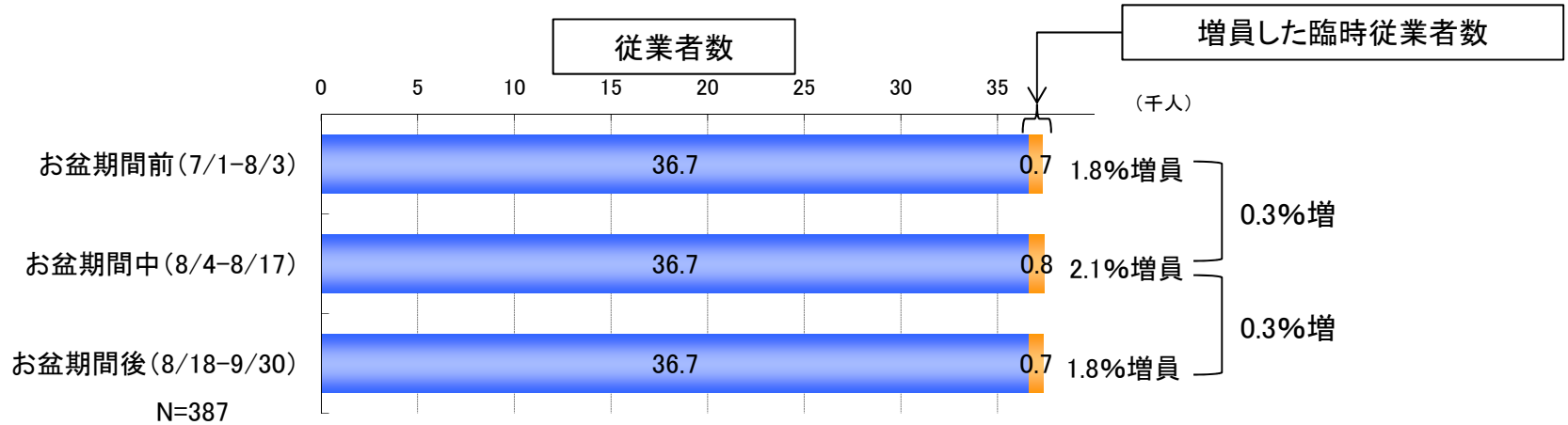


## 減少理由



## < 宿泊施設 >

- お盆期間中の臨時従業者の雇用は前後の期間より0.3%多い。



## < 観光地点 >

- お盆期間中の臨時従業者の雇用は前後の期間より約2%多い。

